

東日本大震災後の福島県福島市の 幼稚園を考える Part 2 ～遊びの環境を通して・・・～



学校法人福島愛隣学園 福島愛隣幼稚園

斎藤美恵子 佐藤仁美

指導助言 福島学院大学福祉学部 佐々木美恵

震災・東京電力福島第一原子力発電所事故から1年5か月福島市の幼稚園の現状は・・・

福島市の幼稚園は、福島県中通り北部に位置し、強制的な避難区域ではないものの、比較的放射線量が高く、避難するか、しないかは個々の選択にゆだねられている。

3園ともに自然に恵まれ、緑豊かな環境の中で園生活を送ってきた。

しかし、原発事故は自然物を“健康に被害を与える危険なもの”にしてしまい、子ども達の暮らしぶりにも変化をもたらし今に至っている。

1、問題提起

昨年度は一年間、放射線の影響で外遊びが一切出来ない環境にあった。

今年度は表土除去（地上1cm $0.46 \mu\text{Sv} \rightarrow 0.13 \mu\text{Sv}$ ）、除染活動等により放射線量が落ち着き規制の中での外遊びがスタートする。

遊びの環境の変化を通して、子どもの育ちがどう変化したのか？

また、外遊びが出来ない環境での子どもの育ち、外遊びの出来る環境での子どもの育ちを感じながら今後の課題について考えていきたい。

2、昨年度（4月 地上1cm 平均 $1.083 \mu\text{Sv}$ ）

・外遊びが出来ない→保育の見直しと工夫

（室内遊びの充実、新鮮な遊びの提供、運動遊びを意識する等）

* 保育の見直し・・外の活動を全て内の活動に取り込み、行事も見直し（運動会、マラソン大会、芋の苗植え、芋ほり、お芋パーティー等）内容を変更したり、中止したり、それらに代わる行事を入れ、物足りない1年ではなく特別な1年になるよう職員で知恵を出し合う。

・室内遊びの充実、新鮮な遊びの提供

* カブラ（写真①）・・・職員が研修を受けながら、支援物資でいただく。

始めはタワー作り等個々で遊ぶが、タワーが高くなるに従い共同的な遊びに発展する。また子どもの発想力で何でも作れる。作ったものは崩して収納するため片付けが素早くなり、また一から作り直せるのも魅力の一つ。バランス感覚も養われる。

* 室内砂場（写真②）・・外遊びが出来ない状況が数年続くと言われる中、支援物資でいただく。海外の海辺の砂を殺菌精製した素材、多少の水を使い感触を楽しむ程度だが子ども達は砂山のトンネルやプリンの形を作り友だちと遊びを共有し五感で楽しむ。

* 廃材の充実・・・・・子どもが好きな時に自由に制作が出来るよう、空き箱やゼリーカップ、トレイ等保護者に協力してもらい集める。自由な発想で、パソコンや宝物入れ、車等を作り楽しむ。

・運動遊びを意識する

* 屋内プール・・・・・園庭では水遊び程度の経験だったが、専門コーチによる指導の下、浮く・バタ足・もぐる等基礎的な体験が出来る。

* 転がしドッヂボール・・おにごっこが大好きな子ども達、室内では思いっきり走れないのでルールのある遊びを提案する、体と頭を使い子どもと一緒に楽しむ。ボールを転がす、つかむ、周りを見る経験が出来る。

＜室内遊びから見えたもの＞

- ・出来ない事を嘆くのではなく、出来ることを探したり 考えたり **子どもの考える力が身に付く。**
→保育者がポジティブに子どもと向き合い、一緒に何をしたら良いのか?何をしたら満足出来るのか?共に考える。
- ・外遊びが出来ない分クラスの**まとまりが早い**。
→朝の外の自由遊びがない分、クラスに引き上げる時間が短縮され、すぐ集まりの体制が取れる。
→クラス単位での5分程度の集まりは出来る。
- ・子どもの願い(七夕、クリスマス)・・「外で遊べますように」が多数あった。
→どんなに頑張っても外遊びには敵わない事を痛感すると共にこの子ども達の思いを大切に受け止める。



★カプラ①★



★室内砂場②★

3、今年度(4月 地上1cm 平均0.131μSv)

- ・設定時間の中で**1時間程度、砂遊び以外の遊びがスタート**する。
 - * ブランコ(写真③)・・2年保育の子どもは、経験不足から年長でもブランコをこげない子が多くいた。保育者がコツを伝えながら回数をこなすことで、6月頃より習得する。
 - * 固定遊具・・・・・・テーマパークのように子ども達が歓声を上げて楽しむ。
 - * サッカー・・・・・・砂の着いたボールが触れない。回数をこなすことで、サッカーをしたい気持ちが上回り触れるようになる。
 - * おいかけっこ、おにごっこ、かくれんぼ・・・思い切り体を動かし楽しむが、回りが見えず人や物にぶつかる子が多い
→動きながらの回りの把握が難しい・予知が出来ない→回数をこなすことで減少する。

＜外遊びから見えたもの＞

- ・全園児が集まる時に落ち着いている
→外遊びによりメリハリがつき発散することが出来るのか6月の誕生会には3歳児でも落ちていた。
- ・体を動かす量が倍増する
→心地好い疲れ→お腹が空く→食事をしっかり取る→**基本的生活習慣の獲得。**

- ・外に出るだけで、風、気温の変化、草木の変化、日ざし、開放感を感じる
→心が動く。



★プランコ③★

4、考察

- ・外遊びが出来る環境になり改めて自然が子どもに与える経験の多さを感じた。今年度は外遊びを通して「楽しい」「疲れた」の声が聞かれ、「心と体が満足」しているのではと感じる。昨年度は子ども達と共に常に考える環境にあり「楽しかった」の声が多く聞かれ「心が満足」していたと感じた。「心と体の満足」は、子どもの落ち着き・生活習慣の習得にも繋がっているのではと考える。
- ・昨年度は、当たり前の環境が当たり前ではない事を、震災を通して知る
→そのことを子どもと共に考えることが出来た。また感謝の心も例年以上に自然と身に付いたように考える。
- ・どのような環境にあっても常に子どもに向き合う保育者の「保育の質」「発想の転換」により子どもが満足出来る環境を作れると考える。

5、今後の課題

- ・今後の子どもの体力を考慮し運動を意識した保育をする。
→なわとび、鉄棒、サッカー、ドッヂボール等
- ・園外の自然物に触れがたい環境にあるので、自然物に興味が湧くような環境構成をする。
→昆虫飼育、根菜の水栽培、金木犀等香のある草花を飾る等
- ・正しい情報と正しい知識を身に付け、子どものこれからの将来の安心を図る。